

スポーツ産業論Ⅰ

科目ナンバリング SPS-112
選択 2単位

大山 高

1. 授業の概要(ねらい)

産業という言葉は、第一次産業(農林業、鉱業、漁業など)と第二次産業(第一次産業で生産したものを加工する製造業、建築業など)はよく耳にします。それでは、スポーツ産業とは何産業なのでしょう? スポーツとはモノではなく、ソフトであるサービスとして認識するのであれば「スポーツ産業は第三次産業である」と理解するのが普通です。しかしスポーツの概念は幅が広く、スポーツ用品を製造している企業からすればスポーツ産業は第二次産業であると考えられますし、プロスポーツクラブは、スポーツ興行で生産される「試合」を販売しているサービス産業(第三次産業)です。

つまり、スポーツを扱うビジネスは非常に複雑なのです。スポーツ産業を理解するということは、スポーツという商品の価値がどのように創出され、価値がどのように現金化されるかを理解することを意味します。ただし、スポーツは商品であると同時に文化でもあり、スポーツ産業はスポーツ文化の振興を担っているという視点も必要以上を踏まえて、本講義では、スポーツ産業を構成する諸産業に分解し、それぞれの仕組みについて解説を行います。

2. 授業の到達目標

授業の到達目標は「一人でも多くの受講生が“将来、スポーツの仕事をしたい”と感じ、イメージできた」です。

『スポーツ用品メーカーで働く』

『スポーツ情報をテレビやネットで配信していく仕事をしたい』

『プロスポーツビジネスの仕事をしたい』

『地域のスポーツクラブやフィットネスクラブでインストラクターになりたい』

スポーツビジネス概論では、授業を通じて誰もが思い描く「スポーツの仕事とは?」の疑問を解決させていきます。

3. 成績評価の方法および基準

出席: 7割以上の出席を前提とする。平常点として28点

試験: 期中に中間・期末テスト36点×2回 計72点

※公欠、病欠は証明書があれば認める

以上を総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

大山 高 『Jリーグが追求する「地域密着型クラブ経営」が未来にもたらすもの』(青娥書房)

大山 高 『海外のサッカーはなぜ巨大化したのか』—欧州サッカーの歴史とクラブ経営に学ぶスポーツマネジメント—(青娥書房)

参考文献

『マネジメント エッセンシャル版 基本と原則』(ダイヤモンド社)

5. 準備学修の内容

興味を持った課題について「自分は何がしたいのか?」を自問自答してください。配布資料や参考文献を通じて独習し、授業時間外でも勉学や実務経験(インターンシップなど)に励んでください。

6. その他履修上の注意事項

この講義では、講師自身が実際に仕事として携わってきた企業(実業団)チームの運営、選手のブランドマネジメント、Jリーグクラブのプロスポーツクラブ経営、広告代理店での権利ビジネス、Jリーグブランドマーケティングとは何かを詳しく紹介していきます。

スポーツ産業界で働くには、どのような考え方が必要か? 学生諸君の理解を深めるために積極的な発言&相談を期待しています。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 スポーツ産業の定義
- 【第3回】 スポーツビジネスの現状と課題
- 【第4回】 スポーツ施設産業／公共スポーツ施設のマネジメント
- 【第5回】 スポーツとメディア産業
- 【第6回】 実務者による講義(オンライン)
- 【第7回】 スポーツサービスとスポーツ消費者の関係性
- 【第8回】 スポーツマネジメント概論
- 【第9回】 クラブ事業のマネジメント
- 【第10回】 スポーツイベント事業のマネジメント
- 【第11回】 チケット販売戦略／顧客の把握とCRM
- 【第12回】 スポーツ・スポンサーシップ
- 【第13回】 スポーツ資格制度／スクール事業のマネジメント
- 【第14回】 実務者による講義
- 【第15回】 総括